

第2章

教育活動の変遷



1. はじめに

平成9年6月、中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」及び同年10月には「専門高校の今後の在り方」について産業教育審議会中間まとめが出された。これらを受けて、県内では高等学校再編整備検討委員会の最終答申が平成9年3月に出され、新しいタイプの学校や総合学科及び医療・福祉や地場産業関連の特色ある学科・コースの設置などが提言された。その後、21世紀石川学校教育推進会議が設置され、5つのワーキンググループの中で総合学科の増設や魅力ある専門高校づくりが検討され始めた。このような状況の中で、近隣の学校においても総合学科への転換を検討する学校も出てきた。

本校は当時120年の歴史と伝統を誇り、農業教育一筋に歩む中県内外に多くの有為な人材を輩出していた。しかしながら、昭和40年代後半を境に本校を取り巻く環境は変化し、農業教育の悪化や偏差値教育、少子化の影響から次第に厳しさを増し、数年前よりそのピークを迎えていた。具体的には、在校生の90％は非農家であり、農業後継者も例年数名程度である。また、関連産業への就職者数は年々減少をたどり30％を大きく下回り、その一方で進学者が増加していた。さらに、中途転退学者数の割合が極めて高く、平成9年度入学者選抜では定員割れを生じている。こうした状況下で、多様化する生徒たちを、従来の農業高校や農業教育システムの枠内で教育することは限界に達しており、抜本的な改革が必要となっていた。

2. 学校ビジョン検討委員会の設置

平成10年4月27日に委員会設立発表、校長、教頭、農場長、教務課長、総務課長、5学科代表の10名で構成し、11月に普通科代表者3名を追加した。以降27回に渡る委員会を開催。

審議内容は次のとおりである。

- 1 学校改革資料の配付と委員の顔合わせ
- 2 教育及び学校改革の必要性
- 3 視察校の選定
- 4 視察方法と内容の学習
- 5 学校視察報告とこれまでの反省
- 6 学校視察報告、改革に関する議論
- 7 学校視察報告、本校の改革方向の議論
- 8 学校改革の基本的な考え方の提示と具体的方向案についての審議
- 9 改革の方向案についての手直し

- 10 視察学校比較一覧表の提示
系統例の審議
 - 11 改革最終案の作成、単位制導入の確認
分担系統案の内容についての報告、説明
 - 12 学校視察報告、単位制の学習
臨時職員会議打ち合わせ
 - 13 臨時職員会議の反省、今後について審議
 - 14 臨時職員会議の質疑回答審議
単位制の学習、群及び系統についての議論
 - 15 総合学科の全国大会内容（石川県開催）
単位制経験者からの説明、系統の内容審議
 - 16 10系統の科目群の確定、各系統の研究分担
 - 17 各系統科目群の報告、審議
 - 18 教育課程表、履修モデル表配付、審議
 - 19 各系統の教育課程履修モデル案審議
 - 20 各系統の教育課程履修モデル案審議
 - 21 各系統の最終教育課程履修モデル案審議
 - 22 教育課程モデル案の提示と専門科目の厳選審議
 - 23 学習モデル、教育課程表の再検討
 - 24 共通普通科目の審議、校名審議
 - 25 校名審議、学科目標提示
 - 26 学習系統の目標審議、校名の確定
 - 27 学習系列目標の確定
- この間に職員会議11回、農場会議4回及び36校の学校訪問を行い、校名変更については全国23校からのアンケート調査を実施した。5月に改革案をまとめ担当指導主事との打ち合わせを行っている。

3. その後の動き

平成11年5月26日県教育委員会は、公立学校再編整備の具体案を発表した。その中で、本校については、生徒の多様な進路に対応できる幅広い学習システムが必要とされ、平成12年度に新しいタイプの農業高校（単位制）に改編する方向性が示された。

上記のことを基に、6月9日にキャッチフレーズを「さわやかなみどりの風にのって！」とし、校名を石川県立松任六星高等学校、総合グリーン科学科1学科（農業系3、福祉系、工業系、商業系各1）に6つの学習系を設置すること等からなる新学校構想案をまとめるに至った。

6月14日新学科設立準備委員会の設置発表と委員委嘱、委員は校長、教頭、事務長、農場3名、課9名、学科4名の19名。

6月30日学校改革に関する要望書を県教委へ提出。その内容は以下のとおりである。

1. 改革の理念

大きな歪みが生じている社会や本校の現状を考慮して、時代の要請に応える新しい専門高校を目指す。幅広く産業全体へ視点を移し、普通・専門の幅広い選択科目を開設して、生徒自らの主体的選択と、これまで培ってきた体験的総合学習を重視し、多様な能力・適性に対し柔軟な教育を行う。

2. 改革の目標
- ①多様化する生徒に対応した魅力ある学校、学科の再構築
 - ②多様化する地元産業への対応
 - ③21世紀の魅力ある農業教育の創造

3. 改革の骨子
- 新しい教育観に立ち、理振・産振の答申にある専門高校の改善・充実のための視点を尊重し、改革の骨子は下記のとおりとした。
- (1)骨格
単位制の専門高校とする。(単位制、2学期制)
 - (2)学科
1 学科とする。
 - (3)募集規模
200名募集とする。
 - (4)校名
イメージの一新を図るため変更する。
 - (5)特色
 - ①農業をベースに幅広い工業・商業・福祉など幅広い専門科目が選択できる学校
 - ②幅広い進学が可能な学校
 - ③興味・関心や幅広い進路に応じて、自由に科目選択ができ、個人の時間割が作成できる学校
 - ④独自のユニークな科目を開設し、一人一人の適性に応じ、個性を伸ばす学校
 - ⑤自主的・体験的学習を重視し、少人数の授業を展開する学校
 - ⑥生涯学習センターとしての役割を担う学校

4. 改革の具体案

(1)教育目標

社会や時代の進展に対応して、農業本来が持つ総合科学の視点から、産業の基礎・基本的な知識や技術を、身につけるとともに、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育てる。

(2)校名

校名は全国のアナケート調査結果や本校の歴史が

ら、「石川県立松任六星高等学校（仮称）」とする。

(3)学科名

総合グリーン科学科（仮称）とする。

(4)システム

単位制（2学期制、総合選択制）

1 年次に共通科目を学び、その学習・ガイダンスを通じて各自の興味・関心から将来の進路目標を設定する。2 年次からは進路や興味・関心に応じて、生徒自らが科目を選択し学習する。

科目・単位の目安

必修科目 普通：35単位
 専門：30単位

選択科目 25単位（普通・専門は自由）

すべての生徒が原則学ぶ科目

「産業社会と人間」、「農業情報処理」
「農業基礎」、「課題研究」、「総合実習」

(5)学習系統とその目標

2 年次以降の科目選択やクラス編成の目安になる科目群として、系統を設ける。

- ①グリーンデザイン系
- ②バイオテクノロジー系
- ③フードテクノロジー系
- ④ヒューマンセラピー系
- ⑤アーステクノロジー系
- ⑥フードビジネス系

となっている。

(6)系の内容と進路目標

(7)教育課程表

(8)系履修モデル案

その他添付資料

- ・学校ビジョン検討委員会の経過概要
- ・校名変更アンケート調査結果
- ・校名変更理由書
- ・「農業」のついていない農業高校の例

4. 要望書提出後の動き

7月7日 県教委と中学校向け説明会に向けて①系、②授業時数、③施設、④その他科目の開設科目を確認し、リーフレット作成についての協議を行った。

7月15日には県教委と校名について、キャッチコピー「さわやかなみどりの風にのって！」を基に「翠」、「風」を軸に検討していくことが提案されるとともに、開設準備計画及び施設整備の方針が示された。

県教委提案を受け開設準備委員会は委員を教務、総務、農務、生徒指導、特別活動、入試検討の6 グル―

プに分けてそれぞれ必要事項の検討を進めることとした。検討内容は次のとおり

○教務グループ

カリキュラム編成、時間割シミュレーション、個人時間割例、シラバス作成、学校規則、進路（進学）指導の研究、新科目の研究

○総務グループ

必要施設、実施教室の割り振り、施設充実のマスタープランの作成、中学校進学案内、リーフレット作成、中学校訪問計画、体験入学、ビデオ作成

○農務グループ

農場整備、農場運営

○生徒指導グループ

制服、生徒心得

○特別活動グループ

部活動

○入試検討グループ

入試方法、配点

7月27日 校名に関する県教委提案を受け校名を松任星輝、松任翠星、松任白嶺、松任翠風、松任若葉の5つに絞り新校名案を示した。

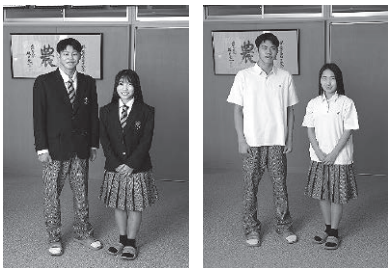
その後更に協議を重ね県教委は8月23日新校名を、スクールカラーで校歌に歌われている「みどり」と校章や同窓会名にも使われている「星」を組み合わせ「石川県立翠星高等学校」とすることを発表した。以降各グループでの検討結果を踏まえ、14回に及ぶ新学科開設準備委員会を開き必要事項を決定するとともに、3週間にわたる中学校への説明会の実施、プロモーションビデオの作成、学校案内の作成、「産業社会と人間」のテキスト作成などを行っている。11月18日には協議題「単位制専門高校開設に向けて」を設定した教科指導等研究会開催している。



1. 創立150周年を機に制服を一新

創立150周年を目前に控えた本校において、新制服制作は、未来へ向けた大きな節目の事業であった。

本校は平成12年、校名を松任農業高等学校から翠星高等学校へと変更した。その際、学校の新たな歩みを象徴するものとして制服も一新され、多くの生徒たちに親しまれてきた。それからおよそ四半世紀が経過し、令和5年、三年後に迎える創立150周年を前に、「新しい時代を迎えるにあたり、制服も新たにしているか」という声が校内で上がった。



まず、この件について教職員および在校生を対象にアンケートを実施した。教職員からは、時代に合った機能性やデザインへの期待もあり、圧倒的に賛成意見が多く寄せられた。一方で、在校生の意見は賛成と反対がほぼ半々であった。長年親しまれてきた制服に愛着や誇りを持っている生徒が多く、「今の制服が好きだ」「翠星高校らしい」という声も数多く聞かれた。そのことは、現在の制服が生徒たちに深く根付いている証でもあり、学校として大変嬉しく感じた。

しかし同時に、150周年という大きな節目を迎えるにあたり、未来へ向けた新たな象徴をつくる意義についても議論が重ねられた。そして最終的には、「次の時代へ歩みを進める翠星高校の姿を制服にも表現しよう」という方向で意見がまとまり、新制服制作が本格的に始動することとなった。

令和5年9月には制服検討委員会を設置し、導入までのタイムテーブルを策定した。また、生徒・教職員・保護者を対象に改めてアンケートを行い、多様な立場から意見を集約した。さらに、県内高校へ制服画像の提供を依頼し、現在の高校制服の傾向や特色について研究を進めた。

次年度4月からは、生徒代表も制服検討委員会に参加し、本格的な検討が始まった。制服は毎日身につけるものであり、何よりも生徒自身が誇りを持てるものでなければならない。そのため、会議では生徒の意見を最大限尊重しながら協議を重ねた。

新制服制作において、私たちが最も大切にしたのは「翠星高校らしさ」である。その象徴として着目したのが、周年行事の目玉として整備された「100年の森」であった。この庭園は、近年注目される造園技法であるレインガーデンの考え方を取り入れ、「100年後も大切にされる庭」をコンセプトとして造成されたものである。私たちは、この庭に調和し、同じように長く愛され続ける制服を目指した。

そこで、制服業者三社に対し、このコンセプトを共有し、冬服試作品をそれぞれ二タイプずつ提出していただくよう依頼した。各社からは、それぞれ特色ある提案が寄せられ、制服に込める想いや学校理解の深さを感じられた。

提出された試作品は校内に展示され、多くの生徒や教職員が実際に目にしながら意見を寄せた。その後、9月には制服制作を担うパートナー企業の選考会を実施した。各社にはプレゼンテーションを行っていただき、デザインコンセプトや機能性、生地へのこだわりなどについて説明を受けた。

その中で選ばれたのが明石S.U.C.である。上品で落ち着いたネイビーとグレーを基調としながら、さりげなく「翠」を取り入れた配色は、翠星高校らしさを見事に表現していた。また、細部まで工夫を凝らしたデザインは、生徒にとって着こなしやすく、同時に格式も感じさせるものであった。「150周年以降も本校の伝統を継承していく制服」という点において、非常にふさわしい提案であったと感じている。

以降、10月、12月、翌年1月と、デザイナーの方にも参加いただきながら検討会を重ねた。リボンやネクタイの色合い、シルエット、素材感など、細かな部分に至るまで丁寧に議論を行った。生徒たちは、自分たちの学校の制服をつくるという意識を強く持ち、真剣に意見を交わしていた。その姿は大変頼もしく、本事業が単なる制服変更ではなく、生徒自身が学校づくりに参画する貴重な機会になっていることを実感した。

冬服のデザインが形となった後、令和7年5月の検討会では夏服についての協議を行った。近年の気候変動による猛暑への対応も考慮しながら、快適性とデザイン性の両立について意見交換を重ねた。



さらに6月の検討会では、7月終業式の日在校生への披露を兼ねた「プチファッションショー」を実施することが決定した。そして7月、中学3年生を対象とした体験入学において、新制服を初披露した。来校した中学生たちは、入学すれば新制服第一期生となる世代である。新制服に目を輝かせながら見入る姿は非常に印象的であり、翠星高校の新たな歴史の始まりを感じる瞬間であった。

制服は単なる衣服ではない。それは学校の理念や伝統、生徒たちの誇りを形として表す存在である。今回の新制服制作を通じて、多くの方々が本校への想いを寄せ、未来の翠星高校について真剣に考えてくださったことを強く感じた。

今後50年先を見据えても、決して見劣りしない制服が完成したのではないと思う。この制服が、生徒たちに愛され、翠星高校の新たな歴史とともに歩み続けていくことを願っている。そして150周年を迎える本校が、これからも地域に愛され、未来へ発展し続ける学校であることを心より期待している。



2. PTA活動

翠星高校PTAは、会長1名、副会長3名、会計1名の幹部役員を中心に運営されており、幹部役員を含む全理事が「広報」「生活指導」「家庭教育」の各委員会に所属し、学校と家庭、地域をつなぐ架け橋として活動しています。

主な活動としては、PTA機関誌の発刊、登校時の挨拶運動の企画・実施、文化祭での模擬店出店など、生徒たちの学校生活を支える取り組みを継続して行っています。こうした活動を通じて、保護者同士の交流も深まり、学校への理解を高める貴重な機会となっています。

この10年間で振り返る中で、特に忘れることのできない出来事がコロナ禍です。学校行事の中止や制限

が相次ぎ、人と人とのつながりが希薄になる中、生徒たちも多く不安や寂しさを抱えていました。そのような状況の中で、PTAとして「高校生のために何かできないか」を真剣に考え、企画したのがフォトコンテストです。

お気に入りの風景や日常の一コマなど、生徒たちが思い思いの写真を応募し、優秀作品を表彰するこの企画は、多くの生徒の参加を得て、大きな励みと楽しみにつながりました。コロナ終息後もこの取り組みは継続され、令和8年度には第6回を迎えます。写真を通して互いの思いや感性に触れ合う機会は、生徒同士、そして学校全体のつながりを深める大切な活動として定着しています。

これからも翠星高校PTAは、生徒たちの充実した学校生活を支え、学校・家庭・地域が協力し合える環境づくりに努めてまいります。



3. 修学旅行の推移

令和8年度	北九州方面（11月実施予定）
令和7年度	北九州（11月）
令和6年度	北九州（6月）
令和5年度	北九州（6月）
令和4年度	北九州（6月 3年） 北九州（11月 2年）
令和3年度	能登への日帰り旅行（3年） 次年度に延期（2年）
令和2年度	中止（コロナ禍のため）
令和元年度	関東方面（11月）
平成30年度	関東方面（11月）
平成29年度	関東方面（11月）



教務課

1. 教育課程の変遷

(1)総合グリーン科学科

平成12年度、専門高校として全国で初めて単位制を導入し、新しいタイプの農業専門高等学校として、これまでの松任農業高等学校から翠星高等学校へと校名も含めて改編された。その背景は、その当時の教育の流れである「ゆとり教育」、「基礎・基本の重視」、「生徒の多様化と個性の伸長」などがキーワードとして目されており、その流れに沿った大改革であった。

学科は総合グリーン科学科の1学科とし、農業専門分野を6つに分け、グリーンデザイン系、バイオサイエンス系、フードテクノロジー系、ヒューマンセラピー系、アーステクノロジー系、フードビジネス系を設置した。専門分野の学習内容は、グリーンデザイン系が造園と都市緑化、バイオサイエンス系が農作物の栽培とバイオテクノロジー、フードテクノロジー系は食品製造と食品の分析、ヒューマンセラピー系は福祉分野における農業の活用、アーステクノロジー系は農業土木と生活の環境、フードビジネス系は食品流通とした。

教育課程では、従来の普通科目、農業科目に加えて、商業科目、工業科目、さらに学校設定科目として「加賀の国の伝統文化」、「アジアと日本の農村文化」、「アメニティデザイン」、「演劇」や「邦楽」など特色のある選択科目が開設された。また、ガイダンス科目として「産業社会と人間」を取り入れ、自己の将来や進路の希望に合わせて自由に科目選択を行い、個々の生徒がオリジナルの個人時間割を組むシステムを取った。

学 習 内 容

- 必修科目** 全ての生徒が学ばなければならない科目です。
- 全員履修科目** 翠星高校生として学ばなければならない科目です。
- 選択科目** 興味・関心・進路に応じて自ら選択し学ぶ科目です。



この改編は全国的にも大いに注目され、多くの学校が本校の視察に訪れた。また、単位制に伴って、4月の始業式から9月末日までを前期、10月以降を後期とする2学期制を導入し、併せて、あらかじめ申請があった場合は、学期ごとに単位の2分の1の履修、修得を認定できることになった。

(2)単位制の農業専門高等学校

平成12年に単位制の農業専門高等学校としてスタートしたが、総合グリーン科学科という名称や科目の自由選択制という点で、総合学科の高校へと改編されたと間違っって認識されることもあり、農業高校として、生徒個々が将来に向けて、どのような専門分野を選択し、3年間で何を学び身につけるのかということを明確にする必要がでてきた。

そこで、平成14年度からは単位制を生かしながら、農業高校としての専門分野の特徴を明確にするという観点の下、2年次以降の科目選択では、自己の進路に合わせた専門分野の系とその中核となる専門科目を履修するように指導することになった。

(3)平成15年度の改訂

総合グリーン科学科へと改編されてから3年が経過し、教育課程の見直しを行うことになった。生徒には自分の将来を十分に考えさせ、系や科目の選択に際しては専門分野の知識や技術が身につくよう留意し、2年次及び3年次で学習する専門分野の中核となる専門科目を2科目4単位履修するように指導した。また、自由選択科目に関しても、選択者数の少ない科目や環境関係で重複している科目を中心に整理・削減した。

(4)平成17年度の改訂

平成8年度以降、1学年200名の定員で生徒募集が行われてきたが、平成17年度より1学年4クラスとなり、160名定員となった。また、同時に教育課程の一部変更も行われた。

(5)平成20年度の改訂

農業の専門高校としての専門性を高め、生徒により実践的な力をつけさせるために、専門分野を中心に学習内容を見直すこととなった。その中で、農業専門分野の学習区分を、従来の6系から専門性をより明確にした5コースへと改編し、生物科学コース、食品科学コース、園芸福祉コース、緑地デザインコース、環境土木コースの5つのコースを設定した。それに伴い教育課程では、従来、各コースの中核となる専門科目を2年次、3年次の各年次で4単位指定していたが、それぞれ、6単位を指定し履修するように指導した。

学 習 内 容

- 必修科目** 全ての生徒が学ばなければならない科目です。
- 全員履修科目** 翠星高校生として学ばなければならない科目です。
- 選択科目** 興味・関心・進路に応じて自ら選択し学ぶ科目です。



(6)平成28年度の改訂

グローバル化、高度情報化など変化の激しい時代の中で、農業はIT化や技術革新の真ただ中にあった。また、TPPや成長産業としての位置づけなど大きなチャンスも巡ってきていた。教育基本法の改正や学習指導要領の改訂に伴い、生徒自らが主体的に学び、問題解決を図っていくなど、これからの時代に求められる資質や能力を身につけさせねばならなくなった。このような大きな転換期を迎え、教育内容の見直しと教育課程の変更が必要となった。

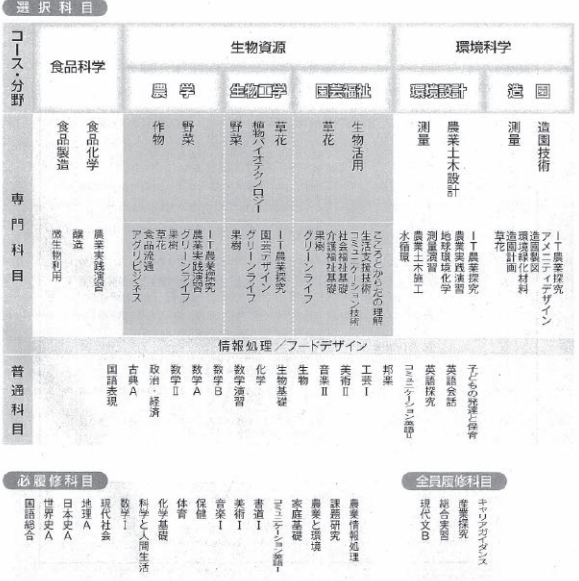
現行の5コースから、「食」、「農」、「環境」をテーマとした3つのコースに再編した。食品科学コース（食）は、食品製造や特産品の開発などを学ぶコースとした。生物資源コース（農）は、6次産業化や生物活用、生物工学や植物工場など先端農業について学ぶコースとした。環境科学コース（環境）は、造園分野や環境設計分野を学べるコースとした。いずれのコースも従来からある農業の専門分野を継承する形で再編を行った。

(7)平成31年の改訂

社会構造の変化やグローバル化、ICT・AIの発展により先行きが不透明な社会に対応するため、学習指導要領が告示された。これを受けて、本校においても教育課程の見直しを行い、主体的・対話的で深い学びや探究的な学習を重視した授業づくりへと改善を図った。また、思考力・判断力・表現力の育成、ICTの活用、さらには地域社会との連携の強化を通して、生徒が変化の激しい社会に主体的に対応できる力の育成を目指した。

学 習 内 容

- 必修科目** 全ての生徒が学ばなければならない科目です。
- 全員履修科目** 翠星高校生として学ばなければならない科目です。
- 選択科目** 興味・関心・進路に応じて自ら選択し学ぶ科目です。



(8)令和4年の改訂

新たな学習指導要領が適用されることを受け、生物資源コースの農学・生物工学・園芸福祉の3分野を廃止し、1つに統合した。さらに、それまで開講されていた園芸デザイン、造園製図、醸造、産業探究、アグリビジネス、IT農業探究などの学校設定科目が削減され、科目の大幅な見直しを行った。

(9)令和8年の改訂

グローバル化に対応するため、外国語（英語）の科目である論理・表現Ⅰを2年次で全員履修とした。また、生物資源コースや環境科学コースの一部科目で単位数を整理し、各コースで履修できる科目を明確化した。



2. 翠星タイム

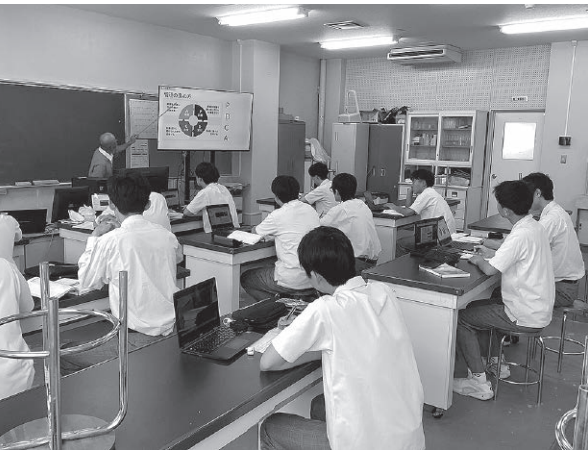
平成20年度より、毎朝、朝礼前の10分間を「翠星タイム」と称した時間を設け、基礎学力の充実を図っている。「翠星タイム」では、年間計画を立て英語、数学、国語の復習を中心に、高校での学習の礎となるよう実施している。また、漢字検定試験に向けた学習や読書週間なども組み入れながら、授業の前の集中した時間を設けることで学習意欲の向上につなげている。短時間の学習ではあるが、毎日の積み重ねが進学や就職、そして、将来へと結びついていくという考えのもと取り組んでいる。

令和6年度からは、リクルートのオンライン学習サービス『スタディサプリ』を導入し、中学校の内容の学び直しや、基礎・基本の定着、個別最適化された学習を取り入れている。

毎年のアンケート調査では、翠星タイムによって基礎学力が身についたと答える生徒が多く、進学や就職に向けた学習時間の確保や定着という観点からも確実に効果が上がっている。



スタディサプリを活用した翠星タイム



大型モニターとChromebookを活用した授業

3. ICTの活用

(1)校務支援システム

生徒の時間割作成や出欠管理については、平成30年度までは「学事エース」を利用していたが、令和元年度から「校務支援システム」が導入された。本システムは石川県内の県立学校で統一して導入されたものであり、成績処理、出欠管理、各種帳票作成などの事務作業が大幅に効率化された。これにより教職員間の情報共有が円滑になり、授業準備や生徒指導に充てる時間を十分に確保できるようになった。その結果、学校全体の教育の質の向上や働き方改革の推進につながっている。

(2)生徒一人一台端末の導入

石川県立高等学校における生徒一人一台端末の導入は、国のGIGAスクール構想（平成31年～）を背景に進められた。コロナ禍による臨時休校を契機としてICT環境整備の必要性が一層高まり、県は無線LANの整備やクラウド型学習基盤の導入とあわせて端末配備を加速した。Chromebookの一人一台配備を基盤に、Google ClassroomやドライブなどのGoogle for Educationを活用し、教材配信や課題提出、共同編集が可能となった。これにより、座学だけでなく、農業科の実習では作物の生育記録の蓄積や写真・データの共有、分析に活用されているほか、部活動や課外活動でも連絡調整や活動記録、成果発信に利用され、学習の場と機会を大きく広げている。

(3)図書室の蔵書管理

平成26年度までは図書室の蔵書管理は表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアを活用して行っていたが、平成27年度より学校図書館管理システム『探検隊』が導入されたのに伴い、ハンディタイプのバーコードリーダーも新たに導入された。これにより蔵書点検が以前よりも簡単に行えるようになり、蔵書点検のための閉館期間が短縮された。

また、ライトノベルや雑誌、漫画の配架も増え、授業での利用だけでなく、休み時間の生徒の利用も増えてきた。

平成12年度の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン学科

教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次	3年次	科目 計	教科計
国語	国語Ⅰ	4	4			4	4~20
	国語Ⅱ	4		*2・4	*2	2・4	
	国語表現	2			*2	2	
	現代文	4			*4	4	
	古典Ⅰ	3		*2		2	
	古典Ⅱ	3			*2	2	
	古典講読	2			*2	2	
地理歴史	世界史A	2		○2		2	4~12
	世界史B	4		○4		4	
	日本史A	2			◇2	2	
	日本史B	4			◇4	4	
	地理A	2			◇2	2	
	地理B	4			◇4	4	
公民	現代社会	4	2	2		4	4~8
	倫理	2		*2		2	
	政治・経済	2			*2	2	
数学	数学Ⅰ	4	4			4	4~18
	数学Ⅱ	3		*2・4	*2	2・4	
	数学Ⅲ	3			*4	4	
	数学A	2		*2		2	
	数学B	2			*2	2	
	数学C	2			*2	2	
理科	物理ⅠA	2		△2		2	6~18
	物理ⅠB	4		△4		4	
	物理Ⅱ	2			*2	2	
	化学ⅠB	4	2	2		4	
	化学Ⅱ	2			*2	2	
	生物ⅠA	2		△2		2	
	生物ⅠB	4		△4		4	
保健体育	生物Ⅱ	2			*2	2	9
	体育	7~9	3	2	2	7	
芸術	保健	2	1	1		2	2~10
	音楽Ⅰ	2	☆2			2	
	音楽Ⅱ	2		*2		2	
	音楽Ⅲ	2			*2	2	
	美術Ⅰ	2	☆2			2	
	美術Ⅱ	2		*2		2	
	美術Ⅲ	2			*2	2	
	書道Ⅰ	2	☆2			2	
	書道Ⅱ	2		*2		2	
	書道Ⅲ	2			*2	2	
	○演劇	2~6			*2	2	
	○邦楽	2		*2		2	
外国語	英語Ⅰ	4	4			4	6~10
	英語Ⅱ	4		*2・4	*2	2・4	
	オーラル・コミュニケーションA	2		□2		2	
	オーラル・コミュニケーションB	2			□2	2	
	リーディング	4			*4	4	
	ライティング	4		*2	*2	2・4	
	家庭一般	4		2	2	4	

○◇△☆は、必修選択科目
□は、1科目以上履修すること
＊は、教養・系・自由選択科目
（内 2年次において農業科目2単位を履修する）
科目左の○は、学校設定科目

教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次	3年次	科目 計	教科計
家庭	保育	2~6			*2	2	0~10
	調理	2~18		*2		2	
	食品衛生	2~4			*2	2	
	児童心理	2~6			*2	2	
	○食文化	2			*2	2	
農業	農業基礎	2~4	3			3	14~41
	農業情報処理	2~8	2			2	
	総合実習	4~12	2	1	2	5	
	課題研究	2~4			2	2	
	作物	2~6		*2	*2	2・4	
	栽培環境	2~4		*2		2	
	農業経営	2~1			*2	2	
	野菜	2~8		*2	*2	2・4	
	草花	2~8		*2	*2	2・4	
	測量	2~10		*2	*2	2・4	
	食品製造	2~10		*2	*2	2・4	
	食品化学	2~10		*2	*2	2・4	
	応用微生物	2~6		*2	*2	2・4	
	食品製造機器	2~6			*2	2	
	生物工学基礎	2~6		*2	*2	2・4	
	造園計画	2~10		*2	*2	2・4	
	農業経済	2~4			*2	2	
	食品流通	2~6		*2		2	
	○環境制御	2~6			*2	2	
	○園芸デザイン	2~6			*2	2	
	○造園技術	2~4		*2	*2	2・4	
	○グリーンライフ	2			*2	2	
	○造園製図	2~4		*2	*2	2・4	
	○アメニティデザイン	2			*2	2	
	○醸造	2			*2	2	
工業	○森林科学	2			*2	2	0~18
	○園芸セラピー	2			*2	2	
	○緑と文明	2		*2		2	
	○加賀の国の伝統文化	2		*2		2	
	○アジアと日本の農村文化	2			*2	2	
	土木施工	2~6		*2	*2	2・4	
	土木設計	2~8		*2	*2	2・4	
商業	環境保全	2~10			*2	2	0~10
	簿記	2~8		*2		2	
	情報処理	2~5		*2	*2	2・4	
	マーケティング	2~5			*2	2	
	商業デザイン	2~8			*2	2	
	商業法規	2~5			*2	2	
	英語実務	2~9		*2		2	
	国際経済	2~4			*2	2	
	○ビジネス技術	2~4		*2		2	
	クラフトデザイン	2~4		*2	*2	2・4	
美術	クラフトデザイン	2~4		*2	*2	2・4	0~4
総合	○産業社会と人間	2~4	2			2	3
	○キャリアプランニング	1		1		1	
福祉	○社会福祉基礎	2~4		*2	*2	2・4	0~8
	○社会福祉援助技術	2~4		*2		2	
	○社会福祉実習	2~6			*2	2	
環境	○環境科学	2~4		*2		2	0~8
	○地球環境	2~4			*2	2	
	○地域環境	2~4			*2	2	
	○環境浄化	2~4			*2	2	
総合的な学習の時間			1~6		1	1	1
ホームルーム活動				1	1	1	3
合計				32	32	30	94

平成21年度以降の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科									
教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次	3年次	単位数の合計		備考	
						科目	教科		
普通 教育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	国語	国語表現Ⅱ	2		* 2	0・2			
		国語総合	4	4		4			
		現代文	4		2	2	4		
		古典	4	* 2	* 2	0・4	8～14		
	地理歴史	世界史A	2	2		2		◇	必修選択科目(1科目選択)
		日本史A	2	◇ 2		0・2			
		地理A	2	◇ 2		0・2	4		
	公民	現代社会	2		2	2			
		政治・経済	2		* 2	0・2	2～4		
	数学	数学Ⅰ	3	3		3			
		数学Ⅱ	4		* 2	* 2	0・4		
		数学A	2	* 2		0・2			
		数学B	2		* 2	0・2	3～11		
	理科	理科総合A	2	2		2			
		理科総合B	2		2	2			
		化学Ⅰ	3	* 2	* 2	0・4			
		生物Ⅰ	3	* 2	* 2	0・4	4～12		
	保健体育	体育	7～8	2	2	3	7		
		保健	2	1	1	2	9		
	芸術	音楽Ⅰ	2	☆ 2		0・2		☆	必修選択科目(1科目選択)
		音楽Ⅱ	2		* 2	0・2			
		美術Ⅰ	2	☆ 2		0・2			
		美術Ⅱ	2		* 2	0・2			
		工芸Ⅰ	2		* 2	0・2			
		工芸Ⅱ	2		* 2	0・2			
		書道Ⅰ	2	☆ 2		0・2			
		書道Ⅱ	2		* 2	0・2			
		○ 邦楽	2		* 2	0・2	2～10		
	外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ	2		* 2	0・2			
		英語Ⅰ	3	3		3			
		英語Ⅱ	4		* 4	* 2	0・6		
		○ 英語探究	2		* 2	0・2	3～13		
	家庭 情報	家庭基礎	2	2		2	2		
		情報A	2	2		2	2		
普通科目単位数計			23	9～19	7～17		39～59		
専 門 教 育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	農業	農業科学基礎	2～4	3		3		*	選択科目
		環境科学基礎	2～4		* 2	0・2			
		課題研究	2～4		2	2	4		
		総合実習	4～8	2	2	4	8		
		農業情報処理	2～4		* 2	0・2			
		作物	2～8		* 2	* 2	0・4		
		野菜	2～8		* 2	* 2	0・4		
		果樹	2～8		* 2	* 2	0・2		
		草花	2～8		* 2	* 2	0・4		
		食品製造	2～8		* 2	* 4	0・6		
		食品化学	2～6		* 4	* 2	0・6		
		微生物基礎	2～4		* 2	* 2	0・4		
		植物バイオテクノロジー	2～4		* 2	* 2	0・4		
		動物・微生物バイオテクノロジー	2～4			* 2	0・2		
		農業経済	2～4		* 2		0・2		
		食品流通	2～4		* 2		0・2		
		農業土木設計	2～8		* 2	* 4	0・6		
		農業土木施工	2～4		* 2	* 2	0・4		
		造園計画	2～8		* 2	* 2	0・4		
		造園技術	2～8		* 2	* 2	0・4		
		測量	2～8		* 2・4	* 2	0・4・6		
		生物活用	2～6		* 2	* 2	0・4		
		○ 園芸デザイン	2			* 2	0・2		
		○ 造園製図	2～4		* 2	* 2	0・4		
		○ アメニティデザイン	2			* 2	0・2		
		○ 醸造	2		* 2		0・2		
		○ 農業実践演習	2		* 1	* 1	0・2	17～49	
	工業	地球環境化学	2～10			* 2	0・2		
	商業	簿記	2～6		* 2	* 2	0・4		
		情報処理	2～6			* 2	0・2	0～6	
	家庭 福祉	フードデザイン	2～6		* 2		0・2	0～2	
		社会福祉基礎	2～6		* 2	* 2	0・4		
		社会福祉援助技術	2～6		* 2		0・2		
		基礎介護	2～6		* 2		0・2		
		社会福祉実習	2～10			* 2	0・2	0～10	
	○総合	○ キャリアガイダンス	1				1	1	
専門科目単位数計			6	10～21	12～23		28～50		
農業科目単位数計			5	6～21	6～23		17～49		
ホームルーム活動			1	1	1	3	3		
総合的な学習の時間									課題研究で4単位分を代替
単位数合計			30	30・31	30・31		90・92		

教科・科目左の ○ は、学校設定教科・科目
◇ ☆ は、必修選択科目 * は、選択科目

平成28年度以降の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科									
教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次 食品科学：生物資源：環境科学	3年次 食品科学：生物資源：環境科学	単位数の合計		備考	
						科目	教科		
普通 教育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	国語	国語総合	4	4		4			
		国語表現	3			0・2			
		現代文B	4		* 2	4			
		古典A	2	* 2		0・2	8～12		◇
	地理歴史	世界史A	2	2		2			必修選択科目(1科目選択)
		日本史A	2			◇ 2	0・2		
		地理A	2			◇ 2	0・2	4	
	公民	現代社会	2		2	2			
		政治・経済	2			* 2	0・2	2～4	
	数学	数学Ⅰ	3	4		4			
		数学Ⅱ	4		* 2	* 2	0・4		
		数学A	2		* 2		0・2		
		数学B	2			* 2	0・2		
		○ 数学演習	2		* 2		0・2	4～12	
	理科	科学と人間生活	2		2	2			* 選択科目
		化学基礎	2	2		2			3年次で生物を履修する場合は、生物基礎を履修していること。
		化学	4		* 2	* 2	0・4		
		生物基礎	2		* 2	* 2	0・2		
		生物	4			* 4	0・4	4～14	
	保健体育	体育	7～8	2	2	3	7		
		保健	2	1			2	9	
	芸術	音楽Ⅰ	2	☆ 2			0・2		☆ 必修選択科目(1科目選択)
		音楽Ⅱ	2		* 2		0・2		* 選択科目
		美術Ⅰ	2	☆ 2			0・2		2年次で、Ⅱを付した科目を履修する場合は、それぞれに対応するⅠを付した科目を履修していること。
		美術Ⅱ	2		* 2		0・2		
		工芸Ⅰ	2		* 2		0・2		
		書道Ⅰ	2	☆ 2			0・2		
		○ 邦楽	2			* 2	0・2	2～8	
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	2		2	4		
		コミュニケーション英語Ⅱ	4			* 4	0・4		
		英語会話	2			* 2	0・2		
		○ 英語探究	2		* 2		0・2	4～12	
	家庭 情報	家庭基礎	2	2			2	2	
		社会と情報	2						農業情報処理の履修で代替
共通科目単位数計			21	11～19	7～17		39～57		
専 門 教 育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	農業	農業と環境	2～6	3		3			農業の専門教科・科目を25単位以上履修
		課題研究	2～6			2	4		□■○コース原則
		総合実習	4～8			2	4		履修選択科目
		農業情報処理	2～6	2		2	4		2年次4～6単位履修
		作物	2～8		□ 2	□ 2	0・4		
		野菜	2～8		□ 2	□ 2	0・4		
		果樹	2～8		□ 2	□ 2	0・2		
		草花	2～8		■ 2	■ 2	0・4		
		食品製造	2～8		2	4	0・6		
		食品化学	2～8	4		2	0・6		
		微生物利用	2～6	* 2		* 2	0・4		
		植物バイオテクノロジー	2～6		○ 2	○ 2	0・4		
		食品流通	2～6		* 2	* 2	0・4		
		農業土木設計	2～8			□ 2	4	0・6	
		農業土木施工	2～6			□ 2	2	0・4	
		水循環	2～6				* 2	0・2	
		造園計画	2～10			■ 2	2	0・4	
		造園技術	2～6			■ 2	4	0・6	
		環境緑化材料	2～6			* 2	2	0・4	
		測量	2～8			2		0・4	
		生物活用	2～6		■ 2		4	0・6	
		グリーンライフ	2～6			* 2		0・2	
		○ 園芸デザイン	2			* 2		0・2	
		○ 造園製図	4			* 2		* 2	0・4
		○ アメニティデザイン	2			* 2		* 2	0・2
		○ 醸造	2			* 2			0・2
		○ 産業探究	2	2			2		
		○ アグリビジネス	4		□ 2		□ 2	0・4	
		○ IT農業探究	2				* 2	0・2	
		○ 測量演習	2			* 2		0・2	
		○ 農業実践演習	2		* 1		* 1	0・2	27～49
	工業	地球環境化学	2～6		* 2		0・2	0～2	
	商業	簿記	2～6		* 2		0・4		
		情報処理	2～6			* 2	0・2	0～6	
	家庭 福祉	子どもの発達と保育	2～6			* 2	0・2		
		フードデザイン	2～6		* 2		0・2	0～4	
		社会福祉基礎	2～6		* 2		0・2		
		介護福祉基礎	2～6		* 2		0・2		
		コミュニケーション技術	2～4		* 2		0・2		
		生活支援技術	2～12			* 2	0・2		
		ところとからだの理解	2～12			* 2	0・2	0～10	
	○総合	○ キャリアガイダンス	1	1			1	1	
専門科目単位数計			8	10～19	12～23		30～50		
農業科目単位数計			7	10～19	10～23		27～49		
総合的な学習の時間			3～6						課題研究の履修で代替
ホームルーム活動				1	1	1	3	3	
単位数合計			30	30・31	30・31		90・92		

教科・科目左の ○ は、学校設定教科・科目
☆ ◇ は、必修選択科目 □ ■ ◎ は、コース原則履修選択科目 * は、選択科目

平成31年度の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科											
	教 科	科 目	標 準 単位数	1年次	2年次		3年次		単位数の合計		備 考
					食品科学：生物資源：環境科学	食品科学：生物資源：環境科学	食品科学：生物資源：環境科学	食品科学：生物資源：環境科学	科目	教科	
普通教育に関する各教科・科目	国 語	国語総合	4	4					4		
		国語表現	3				* 2	0・2			
		現代文B	4		2		2	4			
		古典A	2		* 2			0・2	8～12		
	地理歴史	世界史A	2	2					2		◇必履修選択科目（1科目選択）
		日本史A	2				◇ 2	0・2			
		地理A	2				◇ 2	0・2	4		
	公 民	現代社会	2		2				2		
		政治・経済	2				* 2	0・2	2～4		
	数 学	数学Ⅰ	3	4					4		
		数学Ⅱ	4		* 2		* 2	0・4			
		数学A	2		* 2			0・2			
		数学B	2				* 2	0・2			
		○ 数学演習	2		* 2			0・2	4～12		
		科学と人間生活	2		2			2			
	理 科	化学基礎	2	2				2			* 選択科目 3年次で生物を履修する場合は、生物基礎を履修していること。
		化学	4		* 2		* 2	0・4			
		生物基礎	2		* 2		* 2	0・2			
		生物	4				* 4	0・4	4～14		
		保健体育	体育	7～8	2	2		3	7		
	芸 術	保健	2	1	1			2	9		☆必履修選択科目（1科目選択） * 選択科目 2年次で、Ⅱを付した科目を履修する場合は、それぞれに対応するⅠを付した科目を履修していること。
		音楽Ⅰ	2	☆ 2				0・2			
		音楽Ⅱ	2		* 2			0・2			
		美術Ⅰ	2	☆ 2				0・2			
		美術Ⅱ	2		* 2			0・2			
		工芸Ⅰ	2		* 2			0・2			
		書道Ⅰ	2	☆ 2				0・2			
		○ 邦楽	2				* 2	0・2	2～8		
		コミュニケーション英語Ⅰ	3	2	2			4			
		コミュニケーション英語Ⅱ	4				* 4	0・4			
	外国語	英語会話	2				* 2	0・2			4～12
		○ 英語探究	2		* 2			0・2			
		家庭基礎	2	2				2	2		
	家庭情報	社会と情報	2								「農業情報処理」で2単位分代替
	共通科目単位数計				21	11～19	7～17		39～57		
専門教育に関する各教科・科目	農 業	農業と環境	2～6	3				3		農業の専門教科・科目を25単位以上履修 □■◎コース原則履修選択科目 2年次4～6単位履修 3年次6単位履修	
		課題研究	2～6		2		2	4			
		総合実習	4～8		2		4	6			
		農業情報処理	2～6	2	2			4			
		作物	2～8		□ 2		□ 2	0・4			
		野菜	2～8		□ 2		□ 2	0・4			
		果樹	2～8				* 2	0・2			
		草花	2～8		■◎ 2		■◎ 2	0・4			
		食品製造	2～8	2		4		0・6			
		食品化学	2～8	4	2			0・6			
		微生物利用	2～6	* 2		* 2		0・4			
		植物バイオテクノロジー	2～6		◎ 2		◎ 2	0・4			
		食品流通	2～6		* 2		* 2	0・4			
		農業土木設計	2～8			□ 2		□ 4	0・6		
		農業土木施工	2～6			□ 2		□ 2	0・4		
		水循環	2～6					* 2	0・2		
		造園計画	2～10			■ 2		■ 2	0・4		
		造園技術	2～6			■ 2		■ 4	0・6		
		環境緑化材料	2～6			* 2		* 2	0・4		
		測量	2～8			2		2	0・4		
		生物活用	2～6		■ 2			■ 4	0・6		
		グリーンライフ	2～6					* 2	0・2		
		○ 園芸デザイン	2					* 2	0・2		
		○ 造園製図	4			* 2		* 2	0・4		
		○ アメニティデザイン	2			* 2		* 2	0・2		
		○ 醸造	2						0・2		
		○ 産業探究	2	2				* 2	2		
		○ アグリビジネス	4			□ 2		□ 2	0・4		
		○ I T 農業探究	2					* 2	0・2		
		○ 測量演習	2				* 2		0・2		
		○ 農業実践演習	2			* 1		* 1	0・2	27～49	
	工 業	地球環境化学	2～6		* 2			0・2	0～2		
		簿記	2～6		* 2		* 2	0・4			
	商 業	情報処理	2～6				* 2	0・2	0～6		
		子どもの発達と保育	2～6				* 2	0・2			
	家庭	フードデザイン	2～6					0・2	0～4		
		社会福祉基礎	2～6					0・2			
	福祉	介護福祉基礎	2～6					0・2			
		コミュニケーション技術	2～4					0・2			
		生活支援技術	2～12				* 2	0・2			
		こころとからだの理解	2～12				* 2	0・2	0～10		
		○ 総合	○ キャリアガイダンス	1	1			1	1		
	専門科目単位数計				8	10～19	12～23		30～50		
	農業科目単位数計				7	10～19	10～23		27～49		
	総合的な探究の時間				3～6					「課題研究」で4単位分代替	
	ホームルーム活動				1	1	1	3	3		
	単位数合計				30	30・31	30・31		90・92		

令和4年度以降の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科										石川県立翠星高等学校（全日制課程）									
教 科		科 目	標 準 単位数	1 年次	2 年次			3 年次			単位数の合計		備 考						
					生物 資源	食品 科学	環境 科学	生物 資源	食品 科学	環境 科学	科目 数	教科							
各学科に共通する各教科・科目	国 語	現 代 の 国 語	2	2						2		8～12							
		言 語 文 化	2	2						2									
		文 学 国 語	4			2		2		4									
		国 語 表 現	4			*2		*2		0・4									
	地理歴史	地 理 総 合	2						2		2	4							
		歴 史 総 合	2			2				2									
	公 民	公 共 共 同	2	2							2	2～4							
		政 治 ・ 経 済	2					*2		0・2									
	数 学	数 学 I	3	3							3	5～11							
		数 学 II	4			*2		*2		0・4									
		数 学 A	2			2				2									
		数 学 B	2					*2		0・2									
	理 科	科 学 と 人 間 生 活	2	2							2	◇ 必修選択科目（1科目選択）							
		化 学 基 礎	2			◇2				0・2									
		化 学	4					*4		0・4									
		生 物 基 礎	2			◇2				0・2									
	保健体育	生 物	4					*4		0・4		4～8							
		体 育	7～8	3		2		2		7									
		保 健	2	1		1				2		9							
		芸 術	音 楽 I	2	☆2						0・2		☆必修選択科目（1科目選択）						
	音 楽 II		2					* 2		0・2									
	美 術 I		2	☆2						0・2									
	美 術 II		2					* 2		0・2									
	工 芸		2			* 2				0・2									
	書 道 I		2	☆2						0・2									
	外 国 語	英 語 コミュニケーション I	3	3						3		2～6							
英 語 コミュニケーション II		4			* 2		* 2		0・4										
論 理 ・ 表 現 I		2			* 2				0・2										
論 理 ・ 表 現 II		2					* 2		0・2										
家 庭 情 報	家 庭 基 礎	2	2						2	2		1 年次「農業と情報」で2単位分代替							
	情 報	I	2																
共 通 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計				22	11～17			6～16			39～55								
専門学科において開設される各教科・科目	農 業	農 業 と 環 境	2～6	3						3		農業の専門教科・科目を 25単位以上履修 □■▲コース原則履修選択科目 2年次6単位履修 3年次6単位履修							
		課 題 と 研 究	2～6			2		3		5									
		総 合 実 習	3～8	2		2		4		8									
		農 業 と 情 報	2～6	2		2				4									
		作 物	2～8		◇ 2			◇ 2		0・4									
		野 菜	2～8		◇ 2			◇ 2		0・4									
		果 樹	2～8					*2		0・2									
		草 花	2～8		◇ 2			◇ 2		0・4									
		農 業 経 営	2～6		*2			*2		0・4									
		農 業 機 械	2～6						*2	0・2									
		植 物 バイオテクノロジー	2～6		*2			*2		0・4									
		食 品 製 造	2～8			■ 2		■ 2		0・4									
		食 品 化 学	2～8			■ 2		■ 2		0・4									
		食 品 微 生 物	2～6			■ 2		■ 2		0・4									
		食 品 流 通	2～6			*2		*2		0・4									
		農 業 土 木 設 計	3～8				△4		△2	0・6									
		農 業 土 木 施 工	2～6				*2		*2	0・4									
		水 循 環	2～6				*2			0・2									
		造 園 計 画	3～8							▲2	0・6								
		造 園 施 工 管 理	2～6							▲2	0・6								
		造 園 植 栽	2～6					*2		*2	0・4								
		測 量	3～8					△2		△4	0・6								
		生 物 活 用	2～6		*2				*2		0・4								
		地 域 資 源 活 用	2～8						*2		0・2								
		○ 農 業 実 践	2			*1			*1		0・2			32～50					
		工 業	社 会 基 盤 工 学	2～4			*2				0・2			0～2					
	簿 記		2～6					* 2		0・4									
	商 業	情 報 処 理	2～6					* 2		0・2	0～6								
		保 育 基 礎	2～6					* 2		0・2									
	家 庭	フ ェード デ ザ イ ン	2～6			* 2				0・2									
		食 文 化	1～4					* 2		0・2	0～6								
	福 祉	社 会 福 祉 基 礎	2～6			* 2				0・2									
		介 護 福 祉 基 礎	2～6					* 2		0・2									
		コ ミュニケーション 技 術	2～4			* 2				0・2									
		生 活 支 援 技 術	2～12					* 2		0・2									
	体 育	こころとからだの理解	2～10					* 2		0・2	0～10								
ス ポー ツ		2～10							0・2	0～2									
○ 総 合	○ 日 本 の 伝 統 音 楽 と 農 業	2					* 2		0・2	0～2									
専 門 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計				7	12～19			13～24			32～50								
総 合 的 な 探 究 の 時 間				3～6							「課題研究」で5単位分代替								
ホー ム ルーム 活 動				1	1			1			3								
単 位 数 合 計				30	30・31			30・31			90・92								

生徒指導課

令和8年度の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科										石川県立翠星高等学校（全日制課程）			
教 科	科 目	標 準 単位数	1 年次	2 年次 生物 資源	2 年次 食品 科学	2 年次 環境 科学	3 年次 生物 資源	3 年次 食品 科学	3 年次 環境 科学	単位数の合計		備 考	
										科目	教科		
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現 代 の 国 語	2	2							2	8～12	
		言 語 文 化	2	2							2		
		文 学 国 語	4		2			2			4		
		国 語 表 現	4		*2			*2			0・4		
	地 理 歴 史	地 理 総 合	2					2			2	4	
		歴 史 総 合	2		2						2		
	公 民	公 共	2	2							2	2～4	
		政 治 ・ 経 済	2	2				*2			0・2		
	数 学	数 学 I	3	3							3	5～9	
		数 学 II	4		*2			*2			0・4		
		数 学 A	2		2						2		
		数 学 B	2						*2		0・2		
		数 学 C	2						*2		0・2		
		数 学	2								2		
	理 科	科 学 と 人 間 生 活	2	2							2	◇ 必履修選択科目（1科目選択）	
		化 学 基 礎	2		◇2						0・2		
		化 学 基 礎	4					*4			0・4		
		生 物 基 礎	2		◇2						0・2		
		生 物 基 礎	4					*4			0・4		
	保 健 体 育	体 育	7～8	3	2			2			7	4～8	
		保 健	2	1	1						2		
	芸 術	音 楽 I	2	*2							0・2	☆ 必履修選択科目（1科目選択）	
		音 楽 II	2					*2			0・2		
		美 術 I	2	*2							0・2		
美 術 II		2					*2			0・2			
工 芸 I		2		*2						0・2			
書 道 I		2	*2							0・2			
外 国 語	英 語 コミュニケーション I	3	3							3	2～6		
	英 語 コミュニケーション II	4		*2			*4			0・6			
	論 理 ・ 表 現 I	2		2						2			
家 庭 情 報	家 庭 基 礎	2	2							2	2		
情 報 教 科	情 報 I	2										1年次「農業と情報」で2単位分代替	
共 通 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計			22	13～17			6～16			41～55			
専 門 学 科 に お いて 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	農 業	農 業 と 環 境	2～6	3						3	農業の専門教科・科目を 25単位以上履修 □■▲コース原則履修選択科目 2年次6単位履修 3年次6単位履修 測量については、環境科学コースの 環境設計分野は6単位 原則履修科目 造園分野は4単位 選択科目		
		課 題 研 究	2～6			2		3	5				
		総 合 実 習	3～8	2	2			4	8				
		農 業 と 情 報	2～6	2	2				4				
		作 業	2～8		□ 2		□ 2		0・4				
		野 菜	2～8		□ 2		□ 2		0・4				
		果 樹	2～8				*2		0・2				
		草 花	2～8		□ 2		□ 2		0・4				
		栽 培 と 環 境	2～6		*2				0・2				
		展 望 経 営	2～6		*2				0・4				
		植 物 バイオテクノロジー	2～6		*2		*2		0・4				
		食 品 製 造	2～8		■ 2		■ 2		0・4				
		食 品 化 学	2～8		■ 2		■ 2		0・4				
		食 品 微 生 物	2～6		■ 2		■ 2		0・4				
		食 品 流 通	2～6		*2		*2		0・4				
		農 業 土 木 設 計	3～8			△2		△4	0・6				
		農 業 土 木 施 工	2～6			*2		*2	0・4				
		水 循 環	2～6			*2			0・2				
		造 園 計 画	3～8			▲2		▲2	0・4				
		造 園 施 工 管 理	2～6			▲2		▲2	0・4				
		造 園 植 栽	2～6			▲2		▲2	0・4				
		測 量	3～8			△4,*2		△2,*2	0・4・6				
		生 物 活 用	2～6				*2		0・2				
		地 域 資 源 活 用	2～8				*2		0・2				
	○ 造 園 総 合	4					*2	0・4					
	○ 農 業 実 践	2		*1			*1	0・2					
	工 業	社 会 基 盤 工 学	2～4						*2	0・2	0～2		
		簿 記	2～6		*2	*2		*2	*2	0・4	0～6		
	商 業	情 報 処 理	2～6					*2		0・2			
		家 庭	保 育 基 礎	2～6				*2			0・2	0～4	
	フ ー ド デ ザ イ ン		2～6		*2					0・2			
	福 祉	食 文 化	1～2					*2		0・2	0～10		
		社 会 福 祉 基 礎	2～6		*2					0・2			
		介 護 福 祉 基 礎	2～6				*2			0・2			
コ ミ ュ ニ ケーション 技 術		2～4		*2					0・2				
生 活 支 援 技 術		2～12				*2			0・2				
体 育	こころからの理解	2～10					*2		0・2	0～2			
	ス ポー ツ	2～10							0・2				
○ 総 合	○ 日 本 の 伝 統 音 楽 と 農 業	2					*2		0・2	0～2			
専 門 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計			7	12～17			13～24			32～48			
総 合 的 な 探 究 の 時 間			3～6										「課題研究」で5単位分代替
ホー ム ルーム 活 動			1	1			1			3			
単 位 数 合 計			30	30・31			30・31			90・92			

教科・科目左の ○ は、学校設定教科・科目

☆ ◇ は、必修修選択科目 □ ■ △ ▲ は、コース原則履修選択科目 * は、選択科目

1. はじめに

翠星高等学校は、2016年4月より総合グリーン科学科・生物資源コース・食品科学コース・園芸福祉コース・緑地デザインコース・環境土木コースの5つのコースから、「食」、「農」、「環境」をテーマに食品科学コース・生物資源コース・環境科学コースの3つのコースに再編することにより、生徒自らが主体的に学び、問題解決を図っていく資質や能力を身につけなければならない時代となり、生徒指導の対応も変化を求められるようになった。

2013年にいじめ防止対策推進法等の関係法規の成立など学校、生徒指導を取り巻く環境が大きく変化するとともに、生徒指導上の課題がより一層深刻化している状況の中、2020年には、新型コロナ感染拡大により、学校教育がはじまって以来、初めての全国の小中高校のすべての学校が臨時休業となり、生徒指導の体制も大きく変化することとなった。また、2022年12月には、生徒指導提要の改訂が12年ぶりに公表された。その大きな変動の中、本校においては規範意識の醸成とマナーの向上を目指し、懇切丁寧な指導・生徒理解と深い愛情を併せ持ち、農業高校ならではの大らかさで教科指導に取り組み、全職員で課題解決に向けて努力している。

具体的な取り組みとしては、生徒心得の策定、学校いじめ防止基本方針の策定といじめ問題対策委員会の常設、ネットトラブル防止教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室、着こなしセミナー、交通安全講話の実施、ヤングイーグル隊ウエストによる交通安全啓発活動、S&Pサポート制度等があげられる。

2. 生徒指導計画について

(1)目標

ア 教養を高め、自ら学ぶ態度の確立を図る。

イ 規範意識を高め、「規律ある集団づくり」に努める。

ウ 相互の人格を尊重し、思いやりや慈しみを持って人と接することのできるような精神と実践力のある生徒を育成する。

(2)方針

ア あらゆる機会を捉えて生徒とのコミュニケーションを図り、生徒と教師の相互理解を深める。

イ 目的を持って学校生活を送れるように、学校と家庭の連携を密にする。

ウ 指導にあたっては、全教職員の共通理解のもと

一致団結（組織的）して行う。

エ 「いじめ」の防止と根絶に向け、いかなる原因が存在しても、いじめを肯定する理由とはならないという明快で毅然とした態度で指導に臨む。

(3) 取り組み

ア 基本的な生活習慣を身につけ、人格の健やかな発達と成長を支援する。

イ 「生徒心得」を遵守して、高校生としての品位と責任のある行動がとれるような教育活動を実践する。

ウ いじめの未然防止及び早期対応に向け、「学校いじめ防止基本方針」に則り、より実効的な指導を実施する。

3. 年間指導重點事項

☆規範意識の醸成とマナーの向上

「全ての生徒が落ち着いた環境のもとで、自ら学習活動や学校行事に励むことができる学校」を目標とし、生徒が良好な人間関係を築くための基盤となる「規範意識の醸成」、「ルールの確立」、「マナーの向上」を図り、誰もが「安心できる学校」に向けて規律ある集団づくりをすすめる。

規範意識を高め、年次・年齢にふさわしい、装い（身だしなみ）、ふるまい（態度）、受け答え（言葉遣い）を身に付けさせ、学校生活において同様の行為で繰り返し注意を受けることのないよう意識させる。

また、ネットトラブルやモラル・人権意識の未成熟さ、社会性の未発達による「いじめ」に対し、「いかなる原因が存在してもいじめを肯定する理由とはならない」という明快で毅然とした態度で指導に臨み、全教職員が「いじめはもちろん、いじめをはやし立てたり傍観したりする行為も絶対に許さない」という強い姿勢で教育活動を実践する。

さらに、自転車乗車マナーの向上を意識させながら、道路交通法などの法令遵守を呼び掛け、交通安全に努める。



4. 日常的重点指導項目

(1)品位ある服装と容儀の維持

生徒心得の遵守を徹底し、制服のだらしない着用や基準を無視した着こなしは積極的に指導する。また度が過ぎる違反に対しては再登校指導を実施する場合がある。

- ・登校指導の実施と教職員の参加。
- ・服装容儀指導の毎月実施と年次団との連携による再検査の徹底。指導後1週間以内の是正を徹底する。

(2)遅刻の防止

基本的な生活習慣を身に付けるため、無遅刻月間の取り組みや遅刻防止に関する保護者との協力連携体制を通じて、遅刻者数減少を目指す。

- ・無遅刻月間を設定し、遅刻をした生徒はその日の放課後に奉仕作業を行う。

(3)身の回りの整理整頓と貴重品管理の徹底

身の回りの整理整頓をし、学習にふさわしい周辺環境を確立する。終礼後、机の上や周辺に私物を置いたままの状態で帰宅しない。また、学業に不必要な物を校内で所持しない。さらに、盗難防止の観点からも高額な金銭や物品は学校に持ち込まない。やむを得ず持ち込む場合は必ず生徒ロッカーに入れ、鍵をかけて管理するかHR担任に預けること。(ロッカーの鍵がかかっていない場合は、生徒指導課でかける場合がある。)

(4)諸届願の徹底

安易な無断欠席、遅刻、無届アルバイトがみられるため、様々な許可願・届出および報告書の提出を徹底し、生徒の校内外での状況把握を図り、学校安全管理、適切な学習環境の維持に努める。

- ・許可事項
入室（2種類）、自動車運転免許取得、アルバイト（3種類：就業・許可願、継続願、長期休業期間中許可願）
- ・届出事項
早退、外出、公欠・忌引、異装、自転車通学、自転車変更、（自動車運転免許証取得に関わる検定受検のための）欠席、旅行、盗難紛失、交通事故状況調査
- ・報告書
アルバイト

5. 携帯電話等の使用に関するルール

校舎内において携帯電話等を使用もしくは持ち込んだ場合、一度生徒指導課で預かり、指導回数に応じて

段階的な指導を実施する。

- ・1回目（反省文指導）
放課後反省文を書き、各職員室（第1、2、3職 or 進路）を周り、各居室の先生による指導（指導後に認印）を受けたうえで、生徒指導室に提出した後に携帯電話を返却。
- ・2回目（担任同席による保護者招聘）
保護者を招き、指導協力の依頼をした後返却。その際、次回違反した場合は数日間学校で預かる旨を約束。
- ・3回目（数日預かりのうえ保護者返却）
前回約束した日数の学校預かり期間を経た後、保護者に対し再び指導協力の依頼を実施した後返却。

6. 取り組み強化月間の設定について

- ①無遅刻月間（5、9、11月）
- ②下校指導月間（7、12月）

最後に、近年の生徒指導課の取り組みの成果について簡単に紹介する。令和元年より授業の始めと終わりの挨拶礼法の徹底により、気持ちよいあいさつができる生徒が増えた。併せてフォーマル月間をなくし、ネクタイを常時着用することを徹底した。このことにより、以前より制服の着こなしは良くなった。しかし、未だに着こなしについての指導を行わなければならない状態は継続している。



YEW活動の様子

1. はじめに

2020年に猛威を振るった新型コロナウイルスにより、学習が制限され、特別活動などの学校行事が一時的に自粛・制限を余儀なくされた。マスクをつけた中での学校生活、感染を予防するためソーシャルディスタンスを徹底した中での行事は、声を出すこともできずコロナ禍以前のように盛り上がるできない窮屈なものとなった。

その後、コロナが終息に向かい、学校生活も本来の盛り上がりを取り戻していった。生徒の笑顔も増え、学校に明るさが戻った。以下の行事では、コロナ禍以前とコロナ禍後の様子を示す。

2. マナー環境美化週間

平成14年（2002年）度より開始されたマナー習慣は、平成26年度より朝のあいさつ運動が始まり、より強化された。毎月定められた日に生徒会役員の生徒と各ホーム生徒が玄関に立ちあいさつを交わすことで、朝から活気が生まれるとともに職員との交流の場となった。

また、朝のあいさつ運動・放課後の環境美化委員会を中心とした美化清掃が定着し、有志で参加する生徒も増えた。

令和5年（2023年）度より農業クラブ役員の生徒も朝のあいさつ運動に加わり、生徒会の生徒と農業クラブの生徒が連携を図る活動へと発展した。

令和8年度からは、「マナーの向上」を掲げ、新たな取り組みを計画・実施する予定である。



PTAと連携したマナー環境美化週間の様子

3. 文化祭

コロナ禍以前は、11月上旬に農作物の収穫・販売も含めた3日間の開催であった。そのうち1日が一般開放として、地域の方々にも来校してもらい大きな賑わいを見せていた。講演会も開き多くのゲストを招いた形で活気のあるものとなっていた。

コロナ禍には、コロナウイルスの流行の様子や感染予防対策徹底のもと、『文化的行事』として農作物の即売会、体育館でクラス企画など可能な限りの形での開催となった。従来は、本校体育館で開催されていた『芸能王選手権』も松任文化会館を借りて開催し、生徒の思い出に残るよう職員が知恵を絞って形にしていた。

コロナの終息とともに、文化祭も以前の形に戻して開催することとなった。開催時期を11月上旬あたりとして、2日間での開催となった。1日目に『芸能王選手権』、2日目に『一般開放』として準備を進めた。当初は、大きな行事の準備に戸惑う生徒も多く、職員も手探りの状態でありながらも共に協力しながら学校行事を手作りしていく様子が見られた。令和6年度は、一般開放の日が大雨の予報であったので、造園棟の大きな催事用のテントを立てることになり、教員と生徒が一緒になって頑張って立てた時には歓声が上がった。

特別活動や学校行事が改めて、大いに学校に活力を与えるのだと実感した。今後も生徒・職員が協力しながら盛り上げていけるものにしていきたいと考えている。



催事用のテントの様子

進路指導課

1. 近10年の情勢

この10年の間に日本を取り巻く世界の情勢は大きく様変わりした。令和2年から世界的に大流行した新型コロナウイルスは人々の生活様式全般を変えることとなった。世界的な紛争も後を絶たない。令和4年にはロシアがウクライナへ侵攻を開始、令和8年にはアメリカとイスラエルがイランを攻撃した。石川県内における大きな出来事といえば、やはり令和6年元日に起きた能登半島地震や、翌年の能登豪雨が挙げられる。

こういった情勢の中、日本の人手不足は深刻で、厚生労働省が発表している「高校新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職状況」を見ると、高卒者に対する有効求人倍率は令和5年には3倍を突破し、令和7年には3.7倍にもなっている。石川県内の求人倍率も高く、令和8年3月高校新卒者のハローワーク求人に係る都道府県別求人・求職状況（令和7年7月末現在）は全国平均よりやや高い、3.84倍となっている。

こういった状況は、本校の就職希望者にとってはありがたい。近年は就職希望者における内定率がほぼ100%となっている。

2. 就職者と進学者の割合やその傾向

令和8年度卒業予定者の就職希望者と進学希望者の割合は、ほぼ6：4である。近年は7：3～5：5で推移しており、就職希望者の方が多い傾向がある。

令和元年度から令和7年度までの就職者の業種割合は、製造業が最も多く23.2%、次いでサービス・飲食店が17.2%、卸売・小売が14.8%、建設・建築業が14.6%となっている。農業関連企業・造園業は9.2%となっている。

一方、進学希望者の合格先の割合は、四年制大学が31.2%、短期大学が9.1%、公立専門学校・大学校・高等技術学校等が5.2%、専修学校・各種学校等が54.5%となっている。

3. 国公立大学への進学者

国公立大学へは、毎年2名～5名程度が進学している。令和4年度には石川県立大学へ5名の生徒が進学し、令和7年度には石川県立大学へ2名、福井県立大学へ1名、公立小松大学へ1名の生徒がそれぞれ進学した。

年度	大 学 名	人数
R 元	石川県立大学	1名
R 2	石川県立大学	3名
R 4	石川県立大学	5名
R 5	石川県立大学	1名
R 5	福井県立大学	1名
R 6	石川県立大学	1名
R 7	石川県立大学	2名
R 7	福井県立大学	1名
R 7	公立小松大学	1名

4. 進路指導方針

進路指導課では、以下のような目標を方針として示し、取り組んできた。

- (1) 各年次、担任と連携を密にしながら、生徒一人ひとりの自己実現に向けて、指導・助言を行えるような支援体制の確立を目指す。
- (2) 進路に際し必要な基礎学力の向上を目指し、全教科の教員が一体となって学力を身につけさせる。特に、進学を希望している生徒に対しては、補習のあり方も含め学力向上に向けた体制を目指す。
- (3) 3年間を通したキャリア教育の充実と進路決定の支援を目指し、各学年次で効果的なキャリアガイダンスを行う。

以上の方針は、これからも引き続き持ち続けていく。

5. 具体的な取り組み

(1)基礎学力の向上

令和6年度より、10分間の朝学習（翠星タイム）の時間に株式会社リクルートが運営する「スタディサプリ」を導入した。これは「到達度テスト」を受験することにより、生徒一人ひとりがどこまで理解しており、どこでつまづいているかが分かり、各個人の現状に連動した課題を配信できる仕組みである。これによって、5教科の学習を個人の習得状況に応じてバランスよく取り組むことができる。また、平成27年度から取り入れた、1・2年生の漢字検定全員受験や、それに応じた年間全10回の漢字テストも引き続き行っており、生徒の漢字力向上につながっている。

(2)JST面談と面接指導の充実

JST（ジョブサポートティーチャー）制度を活用し、週に3日勤務するJSTの先生が就職希望の3年生一人ひとりと面談を行い、本人の希望や適性等の理解促進につなげている。

一方では、外部機関と連携し、7月には就職希望者面接待策講座、8月にはジョブカフェ石川による面接指導、9月からは進学者の面接練習等も実施し、生徒が面接で自分のことをきちんと話すことができるように継続的に指導している。

また、平成24年度から行っている2年次生のPTA役員による模擬面接指導は、現在も引き続き行われている。

(3)進路に対する意識づけ

3年間を通して、各年次に多くの進路ガイダンスを設けている。

1年次には、10月にライセンスアカデミー主催の職業別説明会、11月にはリクルートのスタディサプリ適性検査、3月にはさんぼうによる進路ガイダンスを実施。

2年次には、5月にライセンスアカデミー主催の系統・分野別職業説明会、6月にはリクルートによるオープンキャンパスに向けたガイダンス、12月にはライセンスアカデミーによる進学・就職合同相談会へ参加、1月末と2月にはリクルートやさんぼうによる進学・就職別ガイダンスを実施。

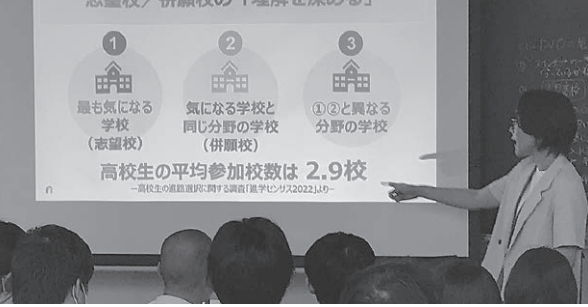
3年次には、4月に進学・就職別ガイダンスを2回、6月にはライセンスアカデミーと本校進路課による進学・就職ガイダンス、7月には石川県主催の企業ガイダンスへ参加、9月にも進学・就職ガイダンスを実施する等、生徒の進路意識を高める取り組みを行っている。

以前から実施している2年次のインターンシップは引き続き行われている。平成22年度から導入した長期型企業実習（デュアル）や、平成25年度から就職と進学とを分けて実施している「卒業生と語る会」も継続して行っている。

これらの取り組みによって、生徒は自分の希望進路をより明確に持つことができている。



白山商工会議所と連携した地元企業説明会



スタディサプリの活用によるオープンキャンパス申込み



ライセンスアカデミー主催の進学就職進路相談会への参加



PTAの協力による模擬面接指導



卒業生と語る会



保護者進路説明会

1. はじめに

今こうして通常の学校生活が送られていることに安堵している。令和の新しい時代が始まって間もなくに発生した「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」のパンデミックでは、日本はおろか全世界の人々がこの感染症によってあらゆる活動が制限され、人類と感染症の歴史にも刻まれる未曾有の経験をした。

学校生活でもいろいろな行事や活動が制限された。感染対策として三密を避けるといったことやソーシャルディスタンス、朝の健康チェック、マスクの着用、黙食等の指導が行われた。また、感染症予防には手洗いや換気の大切さを再認識することとなった。コロナ禍もインフルエンザ等の大流行があり、現在も教室前には手指消毒液を設置してある。



教室前に設置してある手指消毒液

2. 環境美化活動について

(1)環境美化委員会の取り組み

環境美化委員会では、毎月のマナー環境美化週間にて環境美化活動を行っている。普段の掃除ではなかなかできないような場所の清掃や、校舎外のゴミ拾い等も行っている。また、スポーツテストや文化教室等の校外での学校行事の際には、最後に会場点検とゴミ拾いを行っている。

その他には、環境美化に関する標語や掲示物を作成し、環境美化に関する喚起を行っている。

(2)保健委員会の取り組み

保健委員会ではマナー環境美化週間に教室前に設置してある手指消毒液の補充や消毒液を設置してある机周囲の衛生活動を行っている。

3. 保健活動について

(1)生徒保健委員会の取り組み

近年著しい気候変動の影響で熱中症警戒アラートが発令される時期が早くなってきており、期間も長くなっている。熱中症は正しく対応すれば防ぐことができることから「熱中症ゼロ」を目指して放送による注意喚起を行っている。また、感染症の流行時期には換

気の推奨等、知識の普及・啓発活動を行っている。

(2)学校薬剤師とともに

本校の文化祭でも模擬店を行っているが、模擬店の衛生指導には学校薬剤師をお招きして指導を行っている。コロナ禍明けからは3年生全員を対象に学校薬剤師は食中毒について、保健課からは模擬店従事者の衛生管理やゴミの処理について、家庭科からは調理室の使い方についての指導を行っている。

文化祭が楽しく安全に終わることができるよう、一人ひとりが正しく実践できるように指導を行っている。

(3)教職員研修

本校は広大な敷地があり、多岐にわたる分野別授業を開講している。教職員も農場管理の方々を含めるとたくさんの職員が従事している。毎年、日赤の救急法指導員を講師として心肺蘇生法やAEDの使い方について講習を行っている。有事の際には現場で対応ができるように研修を受けている先生方も真剣である。

また、本校は食品科学コースや造園コースがあり、アレルギー物質にさらされる機会がある。食物アレルギーや蜂アレルギーが発生した際にも対応できるように、実際にエピソードレーナーを使つての実技演習や、生徒が嘔吐をした際の対応・処理についてなどの実技演習も行っている。生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう実際の状況に即した知識や技術の研鑽を重ねている。



救急法講習会

4. おわりに

さまざまな要因で健康が脅かされる状況であっても生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう支援・指導を行っていかねばならない。

令和8年度 進路指導行事計画

月	1 年 次	2 年 次	3 年 次
4	9日 課題テスト 28日 第1回進路希望調査 配付 「進路の手引」配付	8日 第1回進路希望調査 配付 9日 第3回スタディサブリ到達度テスト 14日 「進路の手引」配付 進路希望調査フォーム入力	8日 第1回進路希望調査 配付 9日 第6回スタディサブリ到達度テスト 14日 「進路の手引」配付 進路希望調査フォーム入力 20日 進学補習開始(進学希望者) 21日 進学・就職別ガイダンス③(LH) 28日 進学・就職別ガイダンス④(LH)
5	15日 進路希望調査フォーム入力	26日 系統・分野別職業説明会(ライセンスアカデミーLA)	8日 JST面談開始(就職希望者～6/24) 19日 大学入学共通テスト模試(ベネッセ)
6		18日 OCに向けたガイダンス(放課後)(リクルート) 20日 第1回進研実力診断テスト(ベネッセ) 22日 OC予約講座(放課後)(リクルート)	16日 進学(LA)・就職別ガイダンス⑤ 20日 第1回進研実力診断テスト(ベネッセ) 26日 卒業生と語る会(就職希望者)
7		23日～29日 夏季進学補習(進学希望者)	1日 就職求人受付開始 3日 企業ガイダンス事前指導(就職希望者) 6日 求人情報① 配付 11日 高校生対象企業ガイダンス(就職希望者) 13日 求人情報② 配付 15日 応募前見学申込締切(就職希望者) 17日 求人情報③ 配付 22、23日 就職希望者面接対策講座(さんぼう) 23日 第1回進学申出書締切(石川県立大学等) 23～29日 夏季進学補習(進学希望者)
8			7日 第1次就職出願者締切 18日～就職に向けた夏期指導(就職希望者) 20日 第2次就職出願者締切 26日 履歴書1次締切 26日 卒業生と語る会(進学希望者) 27、28日 ジョブカフェ面接指導(就職希望者)
9	1日 第1回スタディサブリ到達度テスト 25日 保護者履修説明会	1日 第4回スタディサブリ到達度テスト 9～11日 インターンシップ	1日 第7回スタディサブリ到達度テスト 履歴書最終締切 5日 就職出願開始 7日 第2回進学申出書締切(進学希望者全般) 8日 進学・就職別ガイダンス⑥ 16日 就職試験開始 17日 進学面接練習開始(進学希望者)
10	9日 職業別説明会(LA)	9日 第2回進路希望調査 配付 10日 第2回進研実力診断テスト(進学希望者) 20日 進路希望調査フォーム入力	
11	10日 第2回進路希望調査 配付 17日 スタディサブリ適性検査(リクルート) 24日 進路希望調査フォーム入力		
12		8日 進路決定へ向けたガイダン(大講義室) 9日 進学希望者ガイダンス事前指導(リクルート) 11日 進学・就職合同相談会(LA 5,6限) 24日～28日 冬季進学補習(進学希望者)	
1	6日 第3回進研実力診断テスト(進学希望者) 7日 第2回スタディサブリ到達度テスト	5日 冬季進学補習(進学希望者) 6日 第3回進研実力診断テスト(進学希望者) 7日 第5回スタディサブリ到達度テスト 26日 進学(リクルート)・就職(さんぼう)別ガイダンス①	16、17日 大学入学共通テスト
2		2日 進学(リクルート)・就職(進路課)別ガイダンス② 10日 保護者進路説明会 12日 模擬面接指導(PTA共催)	
3	11日 1年次進路ガイダンス(さんぼう)		

教育相談課

1. はじめに

コロナ禍を経て、この10年は様々な学びのスタイルが模索される時代となった。平成19年から始まったスクールカウンセラーの配置に続き、平成30年からは高等学校発達障害アドバイザー巡回事業も開始となり、本校でも月1回程度、専門相談員の派遣が行われている。教育相談課の教育活動も多様化していく中、その一端を以下に紹介したい。

2. 心理教育・人権教育

近年、子どもや親の価値観が多様化し、学校現場ではその対応に苦慮している。他の生徒とのコミュニケーションがうまくとれず孤立したり、いじめられたりすることも少なくない。また、SNSなどによる誹謗中傷により心の傷を抱える生徒もいる。スクールカウンセラーによる親子へのカウンセリング、心理教育や人権教育などを通して、生徒の自尊感情を高めたり、人権意識を啓発したりして、お互いを尊重する精神を育成している。新入生には、新学期早々に人間関係づくりの基礎として、グループエンカウンターなどを取り入れた活動を実施している。



3年 自尊感情を高めるために (2026.5.12)



3年 校外講師による人権教育講話 (2024.11.19)



1年 グループエンカウンター (2026.4.14)

3. 特別支援教育

不登校や悩みを抱える生徒の実態把握と校内連携を図るために、年間5回定期的に特別支援委員会を開いている。ここで共有される情報をもとに、気になる生徒や特別な支援を要する生徒の理解と対応について検討することで、今後の指導をさらに充実させるための取り組みを行っている。

4. 関係機関との連携

発達障害や抑うつ傾向、家庭環境など特別な配慮が必要とされる生徒に対応するため、児相や医療機関などとの連携を図っている。また、発達障害アドバイザーの巡回事業により、よりきめ細かい指導ができるようになっている。



2年 SOSの出し方・受け止め方について (2026.6.2)

学科・農場

1. 近年の学科再編

本校は、時代や地域社会の要請に応じながら、農業教育の在り方を見直し、コース・分野の再編を進めてきた。近年は、生徒の多様な進路希望や学習ニーズに対応するため、従来の学科・系列の枠組みを再編し、専門性と実践性を高めた教育課程の充実を図っている。

平成28年には、農・食・環境の3分野を柱として、生物資源コース、食品科学コース、環境科学コースの3コースを開設した。生物資源コースには農学分野・園芸福祉分野・生物工学分野を、環境科学コースには環境設計分野・造園分野を設け、教育内容の充実を図った。さらに令和4年には、生物資源コースの3分野を統合し、農業分野をより広く学ぶことができるコース編成へと改編した。

農業を取り巻く環境が大きく変化する中、知識や技術の習得にとどまらず、地域課題の解決や産業の持続的発展に貢献できる人材の育成が求められている。そのため本校では、各コース・分野の基礎を重視しながら、実習や課題研究を通して専門性を深めることのできる教育体制を整備してきた。こうした学科再編は、本校教育を時代に即したものとするとともに、生徒一人ひとりの学びを確かな進路実現へとつなげる重要な基盤となっている。



1年次総合実習での田植え実習

2. 農場の取組

本校農場は、農業教育の中核を担う実践の場として、長年にわたり多様な教育活動を支えてきた。作物・野菜・草花・果樹・造園などの各分野において実践的な学習を展開し、生徒が「育てる」「管理する」「収穫する」「販売する」といった一連の過程を体験できる環境を整えている。

近年は、従来の栽培技術の習得に加え、地域農業の将来を見据えた新たな取組にも力を入れている。特

に、イチゴの高設栽培や加工品開発を通した校内6次産業化の実践、100年の森の整備など、本校ならではの特色ある学びが展開されている。

農場は、単なる実習の場ではなく、生徒が失敗と改善を重ねながら主体的に学ぶ教育の場でもある。本校農場の日々の取組は、農業の魅力と可能性を伝えるとともに、地域社会に貢献できる実践力を育む重要な役割を果たしている。



レインガーデンを含む円形広場 (100年の森)

3. 地域に根ざす農業教育活動

本校は、地域に開かれた学校として、農業教育を通じた地域貢献に継続して取り組んできた。校内で生産した農産物の販売や地域行事への参加、オープンハイスクールの実施、地域の小学生を対象とした「田んぼの学校」の実施などを通して、地域とのつながりを深めている。さらに、イオンモール白山の周年祭では「SUISEIマルシェ」を行い、日頃の学習成果を地域に発信し、地域住民と交流する貴重な機会となっている。本校は、イオンモール株式会社と包括的連携協定を締結し、相互の連携と協力のもと、生徒の人材育成や自己実現につながる取組を進めている。こうした活動は、生徒が地域社会との関わりを学び、自らの学びを地域に生かす力を育んでいる。



オープンハイスクール開会式

4. 次世代の地域産業を担う人材育成事業

本校では、地元企業や関係機関と連携し、石川県の産業を支える人材の育成を目指した実践的な学びを進めてきた。特に農業分野では、高卒新規就農者を輩出するなど、地域農業の担い手育成に成果を上げている。また、デュアルシステムを活用した地域と連携した学びを通して、生徒は現場で必要とされる知識や技術、職業観を養っている。専門家による実践的な指導では、最新の農業機械に関する学習を通して、時代の要請に応じた専門性の向上を図っている。

5. 専門性を高めるインターンシップの実施

本校では、専門性を高め、進路意識を育てるためにインターンシップを重視している。生徒は校外の現場で実際の仕事を体験することで、学びを深め、責任感や職業観を養っている。地域産業と連携したこの取組は、生徒が将来を考えるうえで大きな意義を持っている。

6. 高等学校DX加速化事業

本校では、令和6年度高等学校DX加速化事業の採択を受け、データサイエンスを活用した農業教育に取り組んでいる。実践的な農業教育を基盤とし、環境データの収集・分析や情報機器の活用を通して、農業と情報を結び付けた新たな学びを展開している。特にイチゴ栽培では、温度などの環境データを生育状況と関連付けて分析し、栽培技術の向上と学習内容の深化を図っている。これらの取組は、機器導入を目的とせず、生徒がデータに基づいて課題を発見し、考察し、改善へつなげる力を育成することを重視している。今後も、農業教育にデジタル技術を取り入れ、地域農業の将来を支える資質・能力の育成を目指していく。



イチゴの定植実習

7. 農業クラブ活動

本校の農業クラブ活動は、学習成果を発表し、生徒が大きく成長する重要な教育活動である。意見発表やプロジェクト発表、各種競技会への参加を通して、専門性だけでなく、表現力や協働性も高めている。農業クラブ活動は、本校の農業教育を支える大切な柱のひとつである。

【主な受賞歴】

平成29年（2017年）

第69回日本学校農業クラブ全国大会 プロジェクト発表会 分野Ⅱ類 最優秀賞・文部科学大臣賞

令和元年（2019年）

第70回日本学校農業クラブ全国大会 プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 最優秀賞・文部科学大臣賞

令和3年（2021年）

第72回日本学校農業クラブ全国大会 プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 最優秀賞・文部科学大臣賞



平成29年大会式典最優秀発表 食品科学研究会

8. これからの学校農場

学校農場は、教育の場であると同時に、生産の場としての役割も担っている。だからこそ本校では、生徒の学びを最大限に高めながら、安全性、作業効率、生産性のすべてを大切に、日々農場経営の改善に努めてきた。教育であるからこそ妥協せず、現場であるからこそ本物を求める。その積み重ねが、本校農場の価値を支えている。

これからも、教育的価値と現場性の両立を図りながら、持続可能な学校農場経営を追求していく。生徒が農業の厳しさと魅力の両方を実感し、地域を支える力を身に付けられる農場であり続けるために、本校は挑戦を続けていく。

生物資源コース

1. コースの目標

生物資源コースでは、農作物の栽培やバイオテクノロジー、食品流通を学び、農業に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。近年は、データサイエンスやICTを活用したスマート農業にも取り組み、地域農業に貢献できる人材の育成を目指している。

2. コースの変遷

平成28年に生物資源コースと名称変更し、農学・園芸福祉・生物工学の3分野を設けた。さらに令和4年には、生物資源コースの3分野を統合し、農業分野をより広く学ぶことができるコース編成へと改編した。

3. 主な実習内容

年 次	主な実習内容
1 年次	農業生物栽培の基礎実習
2 年次	作物栽培の管理実習 野菜栽培の管理実習 草花栽培の管理実習 食品流通の基礎実習
3 年次	農業生物栽培の管理技術の応用 農業生物の収穫・調整実習 食品流通の実践実習 バイオテクノロジーの基礎実習 福祉（保育/介護）の基礎実習
生産物	作物部門 コシヒカリ、ユメミズホ、カグラモチ、ダイズ、アズキ 野菜部門 〈果菜類〉メロン、イチゴ、ナス、トマト、キュウリ 〈葉茎菜類〉サラダ菜、金時草、ネギ、キャベツ、ハクサイ 〈根菜類〉ダイコン、ニンジン 草花部門 〈一年草〉ジニア、センニチコウ、マリーゴールド、ケイトウ、ニチニチソウ、パンジー 〈多年草〉シャクヤク、キキョウ、オステオスペルマム 果樹部門 ブドウ

4. コースの展望

現在の翠星高校では、非農家出身の生徒が9割を超え、学校に求められる役割も大きく変化している。進学・就職を含めた多様な進路選択に対応するため、生物資源コースでは、作物・野菜・草花・果樹の栽培を中心に、流通、販売、福祉、生物工学、課題研究などを通して農業を幅広く学んでいる。

生徒は栽培や管理に関わる中で責任感を育み、天候や生育状況に応じて判断する力を身に付けている。また、農産物の販売や地域の農業法人、企業、大学等との連携を通して、農業の現場に触れる学習も充実させている。農業関連の進路に限らず、ここで得た責任感、調整力、課題解決力を社会で生かせる人材の育成を目指している。



農業機械を用いた田植え実習



地域の園児との交流（サツマイモの定植）

5. おわりに

いしかわ農業支援機構や地域の農業法人との連携、インターンシップやデュアルシステムの活用により、生徒が農業の現場を知る機会が増え、ここ数年は農業法人へ就農する生徒も出てきている。今後、農業を通して責任感、判断力、課題解決力を身に付け、社会で活躍できる人材の育成を目指していく。

食品科学コース

1. コース目標

食品科学コースでは、分析や衛生管理に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得しながら、HACCPの考え方に基づいた衛生管理による安全で安心な食品製造を実践し、地域食品産業の発展及び伝統的な製造技術継承に主体的に貢献していく人材を育成する。

2. コースの変遷

食品科学コースは、農産製造科を前身とし、昭和48年度に食品製造科、平成7年に食品科学科へ改称。平成12年度には総合グリーン科学科の設置に伴いフードテクノロジー系となり、平成21年度に食品科学コースへ改称された。

3. 主な実習内容

年次	科目名	主な実習内容
1年次	衛生	一般衛生管理
	実習	食品製造の基礎
	実験	食品成分分析の基礎、ピペット操作技能検定
	加工品	まんじゅう、ロールパン、イチゴジャム、花、漬物
2年次	衛生	コーデックスの7原則12手順
	実習	小麦粉・果実・野菜の加工、肉加工、クッキー・パン製造技能検定
	実験	標準溶液の調整、食品成分の分析、実験精度検定
	加工品	ラッキョウ甘酢漬、イチゴジャム、包子、うどん、中華麺、燻鶏、ハム、ベーコン、ソーセージ
3年次	衛生	翠星HACCPシステムの実践（クッキー・イチゴジャム）、トレーサビリティシステムの実践
	実習	密封包装食品製造、食品の簡易包装、課題作品製造
	実験	醤油分析、水分析
	加工品	【JFS - B規格適合品】 翠星クッキー、イチゴジャム ロールスポンジケーキ、デコレーションケーキ、梅ジャム、梅干し、梅シロップ、たけのこご飯の素、乳酸菌飲料ラクピス、味噌、ケチャップ

4. 食品加工施設の充実

食品科学実習棟は昭和63年度に完成した。1,722㎡の棟内に5つの実習室を備え、全国有数の規模と充実した設備を誇る。令和2年にはHACCP制度化に対応するため施設の整備・改善が行われ、令和3年にはスマート専門高校事業により棟内のIoT化が進められた。

5. 国内教育機関初の実践的HACCP教育

令和3年、HACCP制度化を契機に、国内の教育機関初となるHACCP第三者認証「JFS-B規格」適合証明にクッキーラインにおいて合格した。これにより、実践的なHACCP教育が可能となり、HACCPモデルとして地域のHACCP推進に貢献している。



HACCPの考え方を取り入れたクッキー製造の様子

6. 地域連携

伝統食材や未利用資源を活用した加工品開発や企業との商品開発・販売に取り組み、平成29年から白山市地産地消連携事業を実施し、地産地消の推進に貢献している。さらに、小学校への出前授業や体験会を通じ、食育活動や伝統食文化の普及に努めている。



小学生和菓子体験会の様子

7. おわりに

創立150周年を迎え、食品科学コースでは、校内六次産業化の取り組みとしてイチゴジャム製造を実践し、「生産から加工・販売まで」を体現した学びを展開している。さらに、安全・安心な食品づくりを通して、「食の安全基地」として全国へ発信を続けていく。

環境科学コース(環境設計)

1. コースの目標

環境の保全や都市緑化など生活環境の整備に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、人と環境の関係についての理解を深めるとともに、これからの時代の地域環境を創造していく人材を育成する。

2. コースの変遷

平成28年（2016）、環境土木コースと造園コースを統合して「環境科学コース」を新設し、それぞれ環境設計分野、造園分野とした。

教育内容では、学校設定科目「測量演習」を新設した。その後、令和4年の新教育課程編成に伴い「測量演習」を廃止。これに伴う教育課程の見直しにより、造園分野の測量選択者も「測量（6単位）」を履修する体制へと移行し、併せて「地球環境化学」に替わり「社会基盤工学」を導入した。

3. 主な実習内容

年次	主な実習内容
1年次	ものづくりの基礎実習 コンクリート実習、電卓計算実習
2年次	昇降式による環閉合差の測定 器高式による往復較差の測定 石川県高等学校測量技術検定（水準） 現地測量実習（松任グリーンパーク） ものづくりの基礎実習 土工機械操作訓練実習 CAD製図実習、溶接実習
3年次	単測法及び倍角法による角測量実習 方向法による方向角の測定 石川県高等学校測量技術検定（角） トラバース測量及び製図実習 ものづくりマイスター型枠施工実習 土工機械施工実習、大日川ダム見学実習

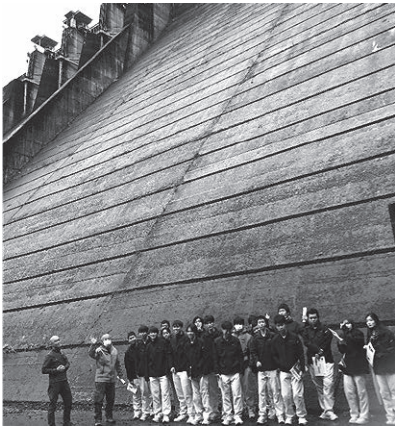
4. コースの展望

総合実習における特筆すべき取り組みとして、平成30年より職業能力開発協会が実施する「ものづくりマイスター派遣（実技指導）」制度を活用した型枠施工実習が挙げられる。3年次の1学期中に14時間を充て、コンクリート型枠及びコンクリート製品の製作を通じて、現場で活躍するマイスター（柳昌建設工

業・阿部氏）から直接指導を受ける機会は、生徒たちの実習に臨む姿勢や意気込みを高める貴重な経験となっている。

施設・設備面においては、令和2年にICT施工実習装置として、ドローン、トータルステーション及び点群作成ソフトウェアを導入し、授業等において活用している。また、従来の測量機器（レベル、セオドライト）の更新も順次進めている。同年からは校内の無線LAN整備も着手され、環境棟においてはほぼ全室からアクセス可能な環境が整った。

さらに、インターンシップをはじめとした地元建設業界との連携も深化しており、2年次末に実施している白山野々市建設業協会青年部との座談会は、その一例でもあるが、毎年好評を博している。今後も地元建設業を主とした地域産業の次代の担い手を育成し輩出できるコース分野として、その社会的役割を果たしたい。



ダム見学実習

5. おわりに

近年は、生徒たちの学習意欲の向上に伴い、自身の進路先に関連する国家資格に挑戦する様子が多々見られるようになった。資格取得を目指して放課後や休日に行う補習に意欲的に参加する生徒が増え、結果として合格者をコンスタントに輩出するようになった。さらに、農業クラブ全国大会の平板測量競技会においては、約3年に1回の頻度で優秀賞を受賞できている。

また、令和7年度には約30年ぶりとなる白山市役所初級土木職への合格者を輩出することができた。

＜本校における測量士補国家資格合格者数の推移＞

	R2	R3	R4	R5	R6
受験者数	5	5	2	1	4
合格者数	2	3	1	1	2

＜2級土木施工管理技術検定＞

令和7年度 受験者数2名 合格者数1名

環境科学コース(造園)

1. 分野の目標

造園分野では、自然環境の保全や緑化、住みよい生活環境の整備に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、人と環境についての理解を深めるとともに、新時代の地域環境を創造する能力と態度を育て、地域建設業の担い手となる人材を育成する。

2. コースの変遷

平成12年度、総合グリーン科学科の誕生とともに6系のひとつとしてスタートしたグリーンデザイン系は、教育課程の変更に伴い、平成21年度から5コースのひとつとして緑地デザインコースとなった。平成28年度から環境科学コース造園分野になる。

3. 主な実習内容

年 次	主な実習内容
1 年次	造園の基礎実習 刈り込みの基礎実習 道具の基礎実習
2 年次	造園製図の実習 庭園の管理実習 庭園管理機械の実習 樹木鑑定の基礎実習
3 年次	庭園施設の実習 竹垣、敷石、縁石の制作実習 樹木鑑定の実習 雪つりの実習 庭園管理の実習 小型建設機械の操作実習

4. 分野の特色

本コースは、石川県の専門高校としては唯一の造園に関する内容を総合的に学ぶことができる分野である。

本県は、兼六園をはじめとした様々な形態の庭園を多く持つことから庭園文化が盛んであり、それらの地域や社会の要望に応えることが本コースの役割である。卒業生も毎年、造園関係企業に就職し造園産業の土台を支えている。

また、都市計画や屋内外緑化、各種庭園様式などを学び、地域の環境づくりの一環となる人材を育成している。造園を通じて環境保全や持続可能性に配慮できる学習を行い、将来の地域環境・景観・自然に寄与できる力を養っている。

5. 目標とする資格取得一覧

- ・造園技能士3級
- ・小型車両系建設機械運転特別教育



造園技能検定3級「作庭実習」



雪つり実習

6. 創立150周年記念事業庭園との関わり

創立100周年事業で作庭された「造園実習見本園」は、平成12年の学科改変により造園を学ぶ生徒や授業数が大幅に減少（生徒数45.2%減、総合実習時数64.5%減）したことに伴い、手入れが行き届かず、荒廃した。そのため、創立150周年記念事業において、生徒が主体となって庭園の整備に取り組み、持続可能な庭園を目指した「100年の森」として再整備された。「100年の森」には、地下水の涵養や都市型水害の抑制に寄与する最新の造園手法「レインガーデン」を取り入れた。環境保全と防災への理解を深める実践的な学びの場としての役割も担っている。また、本校のある白山市松任地区は手取川扇状地に位置し、扇状地の丸石をレインガーデンに取り入れることで、地域の地形や自然環境を学ぶジオ学習の場となるよう工夫した。

これらを契機に、過去に開催していた体験型環境学習「グリーンアドベンチャー」を復活させ、幅広い世代が学べる生涯学習の場を目指した。「100年の森」が、持続可能な地域社会に貢献する「環境教育・防災教育・生涯学習」の拠点として、次代を担う生徒とともに、さらなる充実と発展を目指していく。